

賑ふ小名濱

商店界は活氣溢る
古い因習に依る小名濱町では十九日の舊正月を甲心に舊正月を迎えた、暫く忘れかけていた舊正月の大賑の市で街は二十六日から二十八日にかけて昔ながら賑々しく復活、賑かさを呈せ二十九日（ハマの遊男）善女たちはこぞって各氏神に大漁を祈願（一日の）三十日（舊初め）から商店界は一層活氣を呈せる本社小名濱支局では一流商店界をここに紹介し「小名濱版」をつくった。

漁夫のノド自慢

中學生の辯論大會開く

舊正月の小名濱では各工場と氣を次の如く賑わしているが、一日の正月休みである、いづれも西高東低の冬型にめが突進しては平高通りの勤務とくまれ好天気である。△舊正月日曜日一時曇り△西の風晴れたり曇ったり△舊三日北西の風晴

然し今年にはイワシは勿論正月魚にもハマでは事象有様だ。底網組合の活では正月中は地元船は休漁他縣の廻船による水揚げが僅かにあるだけだ。アノコ、イカ、ヒラメなど高級魚は全然期待出来なない状態である。

千貫獲る

縣指船船師
小名濱漁所船師指船共盛丸はマグロ約五千貫を獲んで舊正月の二十八日正午ごろ歸港、正月のハマに盛勢の良いマグロの水揚げをした。

海陸を結ぶ
通信打合せ

三十日開催
小名濱無線通信士會では四倉無線通信士會と共同練習を三十日正午から小名濱水産試験場講堂にひらき毎日洋上と陸上を結ぶ通信士の今年初顔合せを行う。

三日間は
よい天気

測候所の観測
小名濱測候所では舊正月の天

謹賀新年

- 星 酒店 (電一九〇)
- 鈴木 酒店 (電一七七)
- 伊達屋 酒店 (電四〇九)
- 舊正月の御清遊には
- 鑛泉 小 (電一〇三)
- 賀正 瀧元且
- いわき民報 小名濱支局

- 壽司 金時 (電二二〇)
- 壽司 大原屋 (電四一三)
- 壽司 一平
- 貸席 大メ (電三七七)
- 貸席 末廣 (電三三八)
- 貸席 鈴竹 (電三八三)
- 外食券 食堂
- 貸席 みなと (電四三〇)
- 外食券 食堂
- ゑひす屋 (驛前)
- 小名濱古物商組合 代表 兩宮中庸 (電二二三)
- 壽製材所 (電五八四〇)
- 瀧澤製材所 (電六六〇)
- 木田材木店 (電三三六)

御 旅 館

吉田 米屋 (電一四)

新 なる 盛 館 (電三九四)

錦 玉 盛 館 (電三九四)

玉 盛 館 (電三九四)

諏 訪 館 (電四一〇)

榮泉堂 本店 (電四六一)

國華堂 菓子 舖 (電三八四)

新米屋 菓子 店

小名濱 寫眞師組合 尾城寫眞館 助川寫眞館 鈴木寫眞館

高級衣類専門 小名 中央商事 古物 國本商會

ふくや商店 (電四一〇)

フジタヤ 洋品 店

- 躍進途上の食料品 青果物
- 八百清商店 (本町六〇)
- 文屋 商店 (電三四六)
- 武藤玩具店 (電一九四)
- 中野 肉店 (本町三三)
- ダルマ薬局 (電三三二)
- 小泉金物店 (電三三二)
- 大一屋商店 (下町五)
- 不二商會
- 内山時計店 (電七三)
- 松原時計店 (電八三)
- 菅野時計店 (橋本二)

- 大和 家 (電三五〇)
- 紅 林 (電四二〇)
- 相馬 家 (電三九六)
- 壽 亭 (電五八)
- 喜代美 亭 (電二六)
- 喜久 家 (電二六)
- 大まとい
- 憩 家
- 丸 家
- 梅乃 家 本店
- 梅乃 家 支店
- 近 松

- 果實 卸商組合
- 坪内榮一商店 (電一九二)
- 松屋 商店 (電三八)
- 遠藤雄助商店 (電三四七)
- 鈴木實商店 (電二九七)
- 小野大義商店 (電四一八)
- お履物の店 柳内履物店 (本町)
- 山田屋商店 (電三〇七)
- 野島履物店 (古橋)
- 大菱商店 (仲野)

- 樋口 吳服店 電三〇四
- 安田 屋 吳服店 西町通り
- 小野 屋 吳服店 横町通り
- 永山 吳服店 本町通り
- 紙屋 吳服店 本町通り
- さんかんや 商店 上町通り
- 西村屋 吳服店 電二二四
- 葬祭具一般 吉田佛具店 (上町八)
- 小野佛具店 (古橋三七)
- 吉田石材店 (竹町九六)
- 醤油醸造元 小島源一郎商店 (電九)
- 水産物加工 七兵衛商店 小野一益 (電四一六)
- 日東鮫物産株式會社 社長 西山 春次 専務 氏家 泰藏 専務 橋本 英新 工場長 村上 豊